

色彩を使った基礎実技

美術教育講座・東 慶太郎

1. 授業の概要

本授業は、造形芸術コースと学校教育実践コース（美術教育専修）の合同授業である。平面基礎演習Ⅰ、絵画基礎演習等のデッサン実技を習得したあとの色彩を用いた最初の実技であり、絵画の総合的造形力や「絵画とはなにか」を考えるのに必要な問題意識を身に付けるための重要な科目と位置づけている。

また、本授業では、教員を目指す美術の学生の多くが中学・高校を志望する実情に配慮し、教員採用試験対策を兼ねて、主に水彩による人物画の制作をおこなっている。

基本的な授業展開は、20分ポーズ×6回を2週、計12ポーズを1クールとする比較的短時間周期である。また、1クールごとに希望する受講生全員の作品講評をおこなって、個々の課題や目標を明確化することに努めた。

本年度の受講者数の内訳は、造形芸術コース14名（4年次・3名、3年次・2名、2年次・9名）美術教育専修4名（3年次・2名、2年次・2名）計18名。

2. 授業評価の方法

比較的少人数の実習授業であり、調査は5項目の質問について自由に観想を述べる記述形式でおこなった。なお、アンケート調査は、記述に責任を持たせるため、昨年度から記名式としている。質問項目と回答は**3. 授業評価結果**に示す。（質問項目5. 授業環境についての報告は省略）

3. 授業評価結果

自由記述で文章量が多いため、授業者の立場から有意義と思われる内容を中心に、可能な範囲で報告する。（誤字の修正以外はほぼ原文のまま）

1. この授業へのあなた自身の取り組み状況について、評価できる点や反省点などを具体的に記述してください。（積極性・意欲・充実度など）

①絵に対する姿勢が、中途半端であったと感じる。これはこの授業だけでなく、課題研究等全てに共通して言えることであるが、これ以上描くと絵がこわれる、という不安と、こわれてでも気の済む

まで描こうという気持ちがあり、結局どこにも徹することができないままであきらめてしまっていた。この中途半端な状況に気付いていながら絵をどうにかしようという決断が今まで下せなかったのは、先生がおっしゃっていたように、絵に対する良心や執着が不十分だったのだと思う。

②「絵にしたい」と思ったときに、私は描写力が足りないために、色や色の形にたよってしまう部分が多い。もっともっと「ものに近づける」意識を持ち、しっかりとしたものを描かなければならないと思います。まさに、色の遊びに夢中になってしまいました・・・。

2. この授業であなたが新たに学んだことや習得したと感じることを具体的に記述してください。

①自分が持っていた絵に対する姿勢の甘さにはつきりと気付くことができた。特に大学に入ってから絵を説明しようということに気をとられ、制作中も雑念が多くなっていくと感じる。講評時の先生の言葉や他の学生の作品を見るうちに自分の課題点がよく分かるようになったので、今後の制作に生かしていけると思う。すぐには結果が出ないかもしれないが、ぐるぐると頭で説明を考えず、良心に従ってやってみようと思う。

②これまで水彩は軽くやったことしかなかったのですが、こんなに真剣に描くのは新鮮で面白かった。私はたいてい細かかったり、丁寧すぎて面白くない仕上がりになりがちなので、他の人のように大胆かつ個性あふれる「いい絵」を見るのはとても刺激的で勉強になった。同じ水彩でも、色々な描き方があるのだと思った。

③画面の中から探してくるという感覚が少しわかった気がしました。それから授業で聴いたCDがとてもよかったです。個性の話とかは私が現代アートが苦手な理由がわかりました。個性とか自分らしさとか自分から言う人は単なるわがままだと思います。私の世代はわがままな人が多くてめんどうくさいです。

④「絵にする」ということはどういうことかを考えながら描いていくことができました。まったく習得することはできませんが・・・答えはあるようでなくて、ないようであって・・・。

⑤水彩画の楽しさと面白さを学べたと思う。色が

混ざりやすい、下の色が透けるということで油絵とは勝手が違いとまどったが、そこから生まれる面白さや水彩の性質について理解を深めることができた。また、水彩には一度色をおいたらそれで終わりという先入観があったが、この授業でそれをうちくわくことができたと思う。

3. この授業の内容（課題の種類・難易度・時間配分など）について、感想を自由に記述してください。（授業内容の評価できる点、改善のための提案など）

①種類・難易度・時間配分どれも適切だとおもいます。強いていえばモデルさんの服装をもう少し内部が分かりやすい服にしてほしかったです。ロングスカートの時の足はたいへんでした。というかもう少し肉々しいモチーフのほうが個人的にはやる気がでます。

②クロッキーでは、様々な人・ポーズを描くことができ、勉強になりました。水彩では、時間が短いほど集中して取り組めると思いました。

③2回で1枚の絵を仕上げるペースはちょうど良かったと思います。モデルの服装も毎回ちがったフニキで描いていて楽しかったです。

④講評にかかる時間と、作業の時間の配分がむずかしいと思った。（時間オーバーするときがあるので）

⑤できれば描き上げる毎に別のモデルの人にしてほしい。違った体型や体格の人も描きたい。また、私は女性よりも男性を描く方が不得手なので、男性モデルもいたらいいなと思う。あと、できるだけ薄着、もしくは裸に近いモデルも描いてみたいと思う。

⑥全て同じモデルさんの座りポーズだったが、毎回見え方が違うし、新鮮だった。むしろ同じ人物だったからこそ、毎回の絵や目標につながりを持って取り組むことができると思った。

4. 授業者の指導方法等（指導の回数・時期、講評の方法、説明のわかり易さなど）について、評価できる点、改善を要する点などを自由に記述してください。

①講評のテンポが非常に悪い。もっとはやく話してほしい。

②分かってないと思ったときに、あきらめずに何回も伝えようとして下さっているのがわかります。努力して下さっているんだなあと思いました。

③東先生の指導は分かりやすいし、程よい厳しさもあって良いと思います。また、東先生独特の雰囲気や包まれる講評は、暖かくて面白いので好きです♪

④先生が教えて下さることは、難しくても複雑なことも多いですが、それはそのまま全然いいと思うし、わかり易く説明するっていうのもなんとなくちがう気がするし・・・このままで先生の話はとて楽しくて頭が痛くなります！

⑤CDは少しわかりにくかったのですが、先生がお話して下さった方が、理解が深まったり楽しめた気がします。

⑥ちょうど今日の〇〇さんの件で先生は皆からいじめられて(?) いましたが何もまちがった事言っていなかったと思います。才能は中途半端にない方が、というか自分に才能があるなんて思ったらいい絵は描けないと思います。多分。

⑦生徒に対する評価の言葉えらびなど大変だと思いますが、言葉をえらんでわかりやすく伝えて下さっていたと思います。芸術に対する考えは、生徒それぞれ違うので、指導（講評）していくのは本当にむずかしいと感じましたが、説明のしかたや指導のしかたがわかりやすくて良かったと思います。

⑧評価できる点は、講評・説明について、あまり伝わってなくてもあきらめず説明をやめたりせず、表現をかえたりして伝えようとする。画家としてのヤル気はなさ気ですが教師としてのヤル気は伝わってくるぐらいにはあると思います。

4. まとめ

本授業は、水彩による人物写生の基礎実技であり、絵画を主専攻とする学生だけでなく、デザイン、彫刻などの学生も多く受講している。そのため、絵画に関する問題意識や目的意識には違いがあり、絵画についての知識や能力の向上のみを目的とした専門性の強い指導は必ずしも適当でないと考えている。

今回は、芸術の一分野としての絵画の本質にできるだけ触れるよう、大局的かつきめ細かい講評を心がけ、小林秀雄の講演CD「ゴッホについて」を聴かせるなど、補助教材の活用も試みた。しかし、アンケートの回答にも若干触れられているように、講評の際の授業者の発言内容と一部の学生の受け取り方の間にある種の齟齬が生じたことは反省点である。褒められたり励まされたりすることの心地よさに慣れ過ぎているのか、言葉を尽くして却って拒否反応があらわれるというジレンマには空しさを覚える。或る同僚の曰く「ゆとり教育が生んだ現象のひとつ」なのだろうか。

ともあれ、アンケートを見る限り、大多数の受講生には、授業の目的や意義に沿った充実感・達成感を味わってもらえたと感じている。